令和7年度　大野高等学校定時制　学校評価書

項目	具体的取組	成果と課題	改善策・向上策
1 教育課程 ・ 学習支援	a　基礎学力の定着を図るとともに、生徒の状況に応じた個別支援を行う。生徒の自立的な活動、探究的な学びを支える授業の実践と研究に努める。 目標指数　80％	基礎学力に関する項目については、生徒、保護者、教職員は目標の指数を超える回答があった。ただし、1～4名については、満足度や取組が不十分と回答されていることを踏まえて改善する必要がある。	授業や探究活動における全体指導を、今年度から導入された電子黒板などICTを活用して生徒にとってわかりやすい実践をすすめる。また、学習で理解を深めるために必要な個別支援をより適切に行うことが必要である。
	b 生徒及び保護者と教職員との連携を深めるとともに校内連携も強化し、教育効果を最大限発揮できる教育活動に努める。 目標指数　80％	保護者と学校との連携に関する項目については、保護者、教職員ともに目標の指数は100％であった。一方、学習活動にあまり取り組めなかったと回答する生徒は8．3％おり、改善する必要がある。	学習活動にあまり取り組めなかった生徒について、保護者とも連携しながら原因を解明し、適切な支援を行いたい。また、学習にあまり取り組めなかった事由をすべての教職員で共有したい。
2 生徒支援	a　問題行動の未然防止・早期発見・早期対応に努め、人格形成を図る。また、保護者の理解と協力を得ながら基本的生活習慣を身につけるように努める。 目標指数　80％	毎日教職員ミーティングを開き、その日に起こった出来事を中心に情報交換を行った。問題行動が発生した時は全教職員で対応した。その成果もあり、生徒、保護者、教員とも目標指数を上回ることができた。但し、生徒と教職員の意思疎通の項目では、生徒、教職員、保護者間で数値に差があった。	生徒の声に耳を傾ける「傾聴」を重視し、生徒が教員に話しかけやすい環境を整備する。問題行動があった場合は、その行動をきちんと戒め、よく考えさせて再発しないようにする。 自転車ヘルメット着用が義務化される機会を捉え、講話や集会を通して、命を守る教育を行う。
	b 学校行事や生徒会行事の実施方法を工夫し、生徒の主体性を重視して集団活動の活性化を図る。一人ひとりが自分の役割を全うし、多くの成功体験を積めるように努める。 目標指数　80％	行事や部活動等においては、どの項目も3者とも90％を超えており目標数値を大きく上回った。そのような活動を通して成長を支援する本校の取組が評価されていると思われる。新設の健康を意識した部活動に関しても、意識が高く、事故につながりそうな事例も無かった。新設の部活動における健康管理に関するアンケートも3者とも高く、ヒヤリハットの事例もなかった。	生徒の主体性を重視した取組をさらに重視したい。生徒が企画段階から関われる仕組みづくりをすすめ、振り返りを次年度へ生かす体制を整えるとともに、活動の中心となってリーダーシップを発揮できる生徒の育成を図り、より多くの成功体験につなげる。健康を意識した部活動に取り組んだが、今後は怪我予防のための継続した体力づくりにも取り組みたい。
3 進路支援	a　生徒の進路希望や就労の状況を的確に掌握し、在校生への就労支援や卒業予定者の進路希望実現を図る。 目標指数　70％	就労・進路希望調査を年間5回に増やし、より丁寧な生徒の状況把握に努めた。進路決定や就労について、おおむね適切な支援を与えられた。インターンシップの希望も併せて調査し、3名の実施につなげた。各担任の積極的支援で就労した生徒も多いが、長続きしなかった生徒もいる。多くの卒業生が進路希望を実現した一方で、第一希望が叶わなかった生徒もいる。	将来の職業としてアルバイトでは受け入れ先が少ない業種に興味を抱いている場合は、数日でも体験してみることが有益であるので、インターンシップをより多くの生徒に勧める。高い学力を要する進路先を希望する生徒については、その実現までの道筋や必要な学力基準を示し、計画的に学習に取り組ませる指導体制を構築する必要がある。
	b　企業・学校・ハローワークなどの関係機関と連携して進路意識の向上を図る。 目標指数　70％	ハローワークの担当者を招いての就職講演会や学校見学、企業見学などを通して、将来の職業について考える機会を設けた。各行事のふり返りから、多くの生徒が何かを学び取っていることが確認できた。しかし、進路について具体的な選択肢を絞り込めないままの生徒もいる。	進路関係行事や探究学習、生活と職業の授業などで進路について考える機会は十分にある。それらの取組を踏まえて、オープンキャンパスやインターンシップなど、校外に出て自ら実際の就業分野候補や進学先候補に触れる機会をより多く提供していきたい。

4 保健管理	a　日常的な清掃指導を通じて、環境美化の意識向上を図る。 目標指数　90％	目標指数を90％とし、生徒は95.8％、保護者は100％、教員は100％と目標を達成した。教職員の細やかな指導や生徒が清掃しやすいように工夫したことにより、清掃活動や環境美化の意識は高く、その取組は、高評価であった。	日常的な清掃活動にはしっかり取り組めているが、個人のロッカーや机上が片付いていない生徒もいる。学習空間を快適にするためにさらに働きかけていく。
	b　スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー、外部機関と連携し、個々の生徒に対応した教育相談体制の充実を図る。 目標指数　70％	目標指数を70％とし、生徒は83.8％、保護者は97．6％、教員は88．9％と目標を達成した。生徒の希望するタイミングにスクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーが勤務していないことや保健室で相談したい生徒が同時に複数いることで、生徒の目標達成度が低かった。	養護助教諭も生徒の相談活動に関わっているので、今後も養護助教諭との情報共有をさらに図り、関係教職員がカウンセリングマインドを持って生徒とかかわる体制を充実させたい。また、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーとの面談をさらに有効に実施できるよう工夫していく必要がある。
5 ICT活用	a　ICTを活用した探究活動の実践及び研究を進める。 目標指数　80％	ICTを活用した授業をある程度実施したと回答した教員、タブレットをある程度活用できると回答した生徒、保護者は、目標の指数を達成した。各教科でICTの活用頻度は異なるが、全体的には増加する傾向にある。	現1年次からタブレットが順次更新、また電子黒板が導入される機会を踏まえて、さらにICTを利用した活動の実践・研究を進めたい。
	b　ICTの活用に伴う情報管理やトラブル防止に努める。また、保護者に対して緊急性の高い情報を迅速に提供する。 目標指数　80％	情報の管理・モラルに関する項目について、生徒・教職員の回答は目標の指数を達成した。スマートフォンやタブレットの使用状況に関する項目について、保護者の回答は、目標の指数に達しなかった。今後は、過度の利用とならないように指導・支援することが必要である。	本校生徒のスマートフォンやタブレットの使用状況は、1日当たり平均で10時間を超えている（学習状況調査より）。過度に依存しないように全体指導・個別支援を実施したい。また、家庭での様子についても保護者懇談会等で、利用状況を確認し、保護者と教職員が連携して改善を図りたい。